

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(25年1月)
ーサービスインフレ加速で前年比9.9%まで上昇

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 前年比は9.9%まで上昇

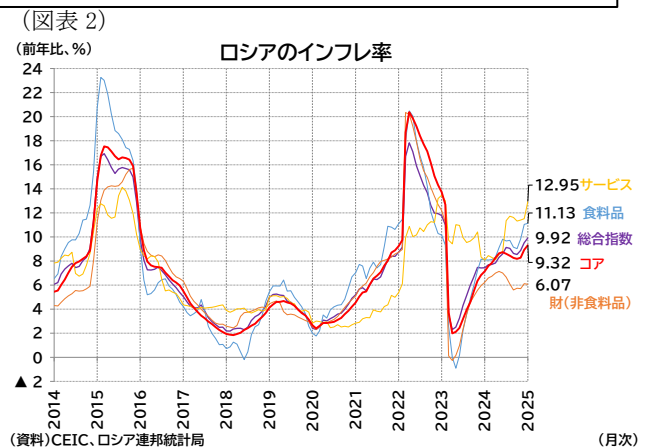
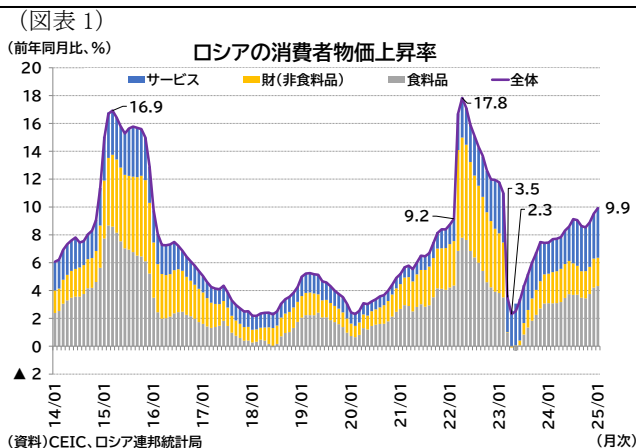
2月14日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(25年1月)】

- ・前年同月比は9.92%、市場予想¹(9.9%)よりやや上振れ、前月(9.52%)から上昇(図表1)
- ・前月比は1.23%、市場予想(1.2%)よりやや上振れ、前月(1.32%)から減速した

【コア指数²(25年1月)】

- ・前年同月比は9.32%、前月(8.93%)から上昇した(図表2)
- ・前月比は0.96%、前月(1.02%)から減速した



2. 結果の詳細: サービスインフレの伸び率が加速

1月のロシアのインフレ率は前年比で9.92%となり、24年12月(9.52%)からさらに上昇した。

インフレ率を大分類別に見ると、1月の前年比伸び率は食料品が11.13%(前月:11.05%)、財(非食料品)が6.07%(前月:6.12%)、サービスが12.95%(前月:11.52%)となり、総じて上昇しているが、1月は特にサービスインフレが全体の伸びを押し上げた。

前年比寄与度では食料品が4.3%ポイント程度、財(非食料品)が2.0%ポイント程度、サービスが3.6%ポイント程度だった(図表1)。

1月の前月比伸び率は、総合指数で1.23%、コア指数で0.96%となった。前月(総合指数1.32%、

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

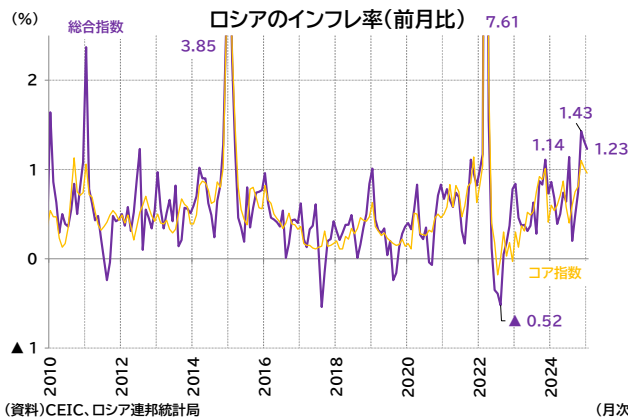
² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

コア指数 1.02%) から減速したものの、総合指数・コア指数ともにコロナ禍前の標準的な上昇率を上回った (2018 年の前月比伸び率は平均で総合指数が約 0.35%、コア指数が約 0.30%、図表 3)。前月比伸び率で見て、24 年 11 月にロシアのウクライナ侵攻後の最高値を記録し (侵攻直後の高騰を除く)、そのまま高水準の伸び率が継続している。

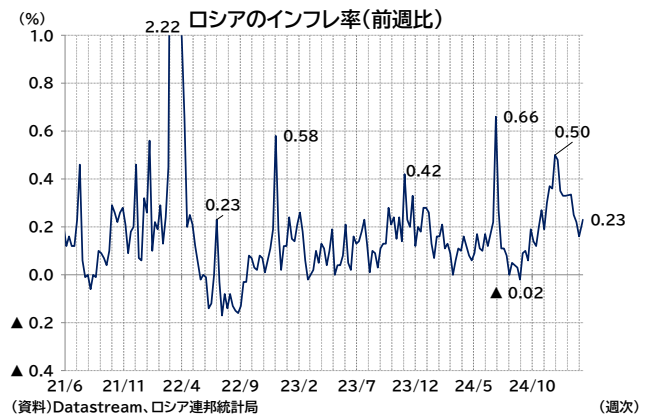
前月比伸び率を大分類で見ると食料品が 1.33% (前月 : 2.60%)、財 (非食料品) が 0.42% (前月 : 0.81%)、サービスが 2.07% (前月 : 0.20%) となった。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率 (消費者物価上昇率) を見ると、最新の 2 月 10 日時点において、前週比で 0.23% 上昇している (図表 4)。

(図表 3)



(図表 4)



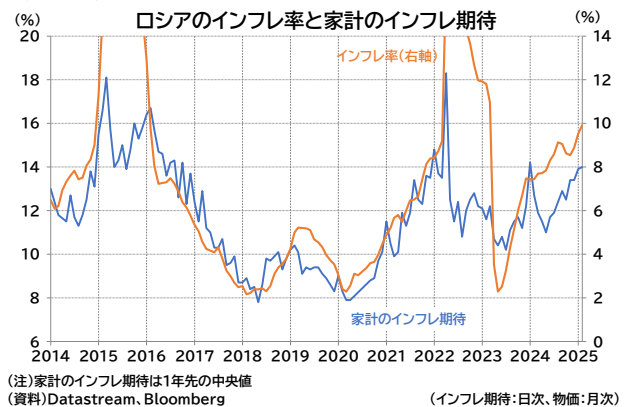
ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待 (1 年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある) は、1 月は 14.0% で 24 年 12 月からやや上昇した。これまで過去の傾向 (期待インフレ率 \approx 前年比インフレ率 + 6%、図表 5) と比較すると、期待インフレ率と実際のインフレ率との乖離が拡大している状況が続いている (期待インフレ率がやや低め)。

品目別の上昇率を見ると³ (図表 6)、1 月は前年比でバター (35.52%)、その他サービス (31.11%) の伸び率が高い。また、前月比では、その他サービス (6.80%)、旅客サービス (3.68%)、青果物 (2.68%) の上昇率が相対的に大きかった。

各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると (図表 7・8)、前年比上昇率への寄与が大きい品目は住居・公益サービス (1.13%ポイント)、青果物 (0.86%ポイント)、だった。

前月比上昇率の寄与では、住居・公益サービス (約 0.22%ポイント)、青果物 (約 0.14%ポイント)、その他サービス (約 0.11%ポイント)、アルコール (約 0.09%ポイント)、旅客サービス (約 0.08%ポイント)、家庭サービス (約 0.07%ポイント) のプラス寄与が大きかった。

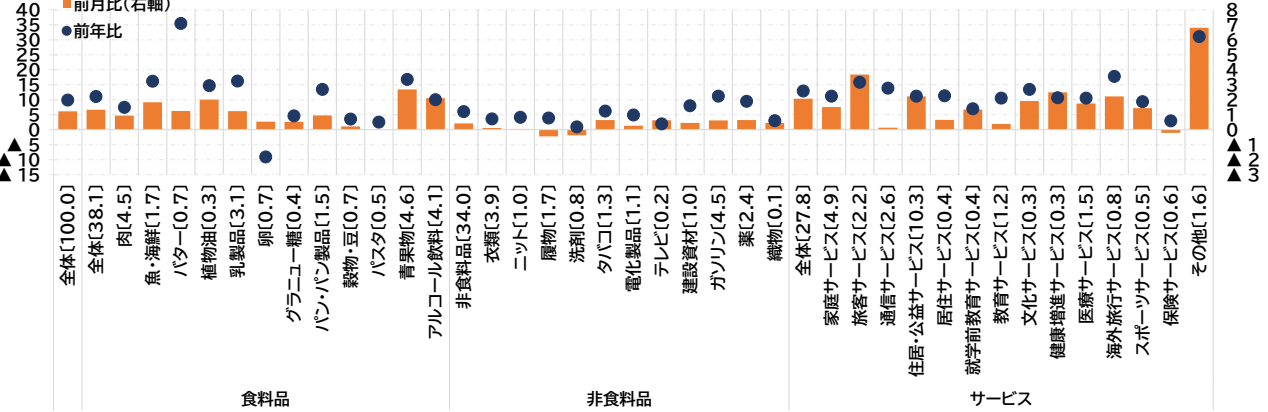
(図表 5)



³ 大分類である食料品、財 (非食料品)、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの (中分類) のうち、[統計局のウェブサイト](#) で公表しているものを記載。

(図表 6)

(前年比、%)

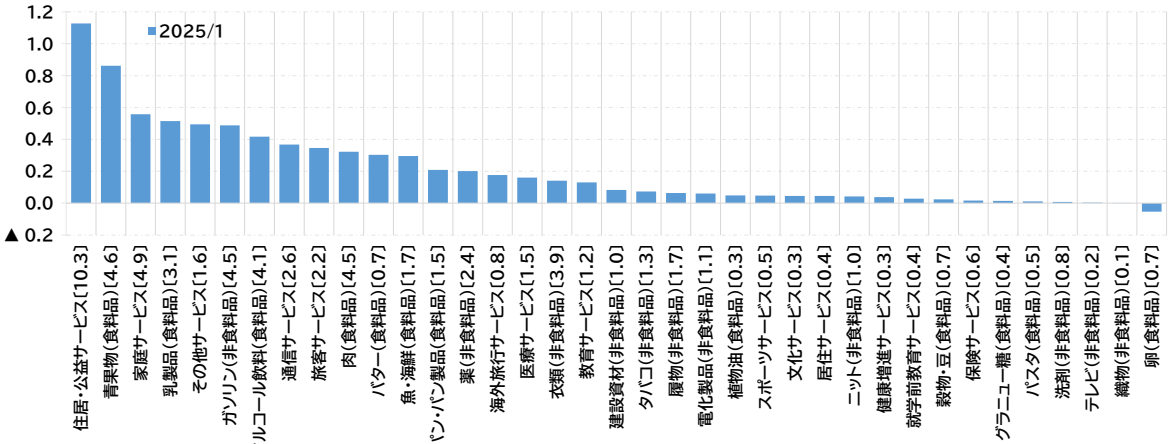


(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない (資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 7)

(前年比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前年比寄与度、抜粋)

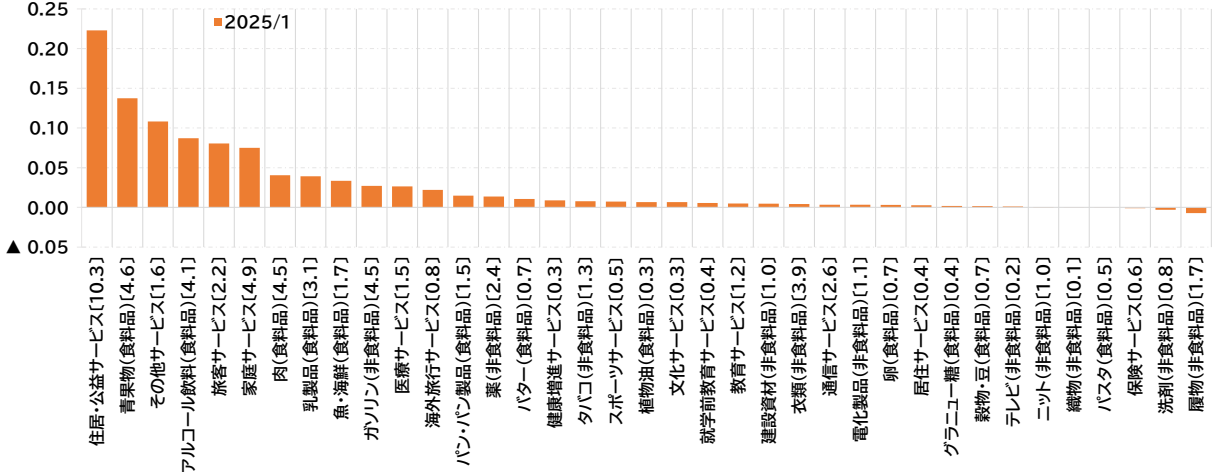


(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない (資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 8)

(前月比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前月比寄与度、抜粋)



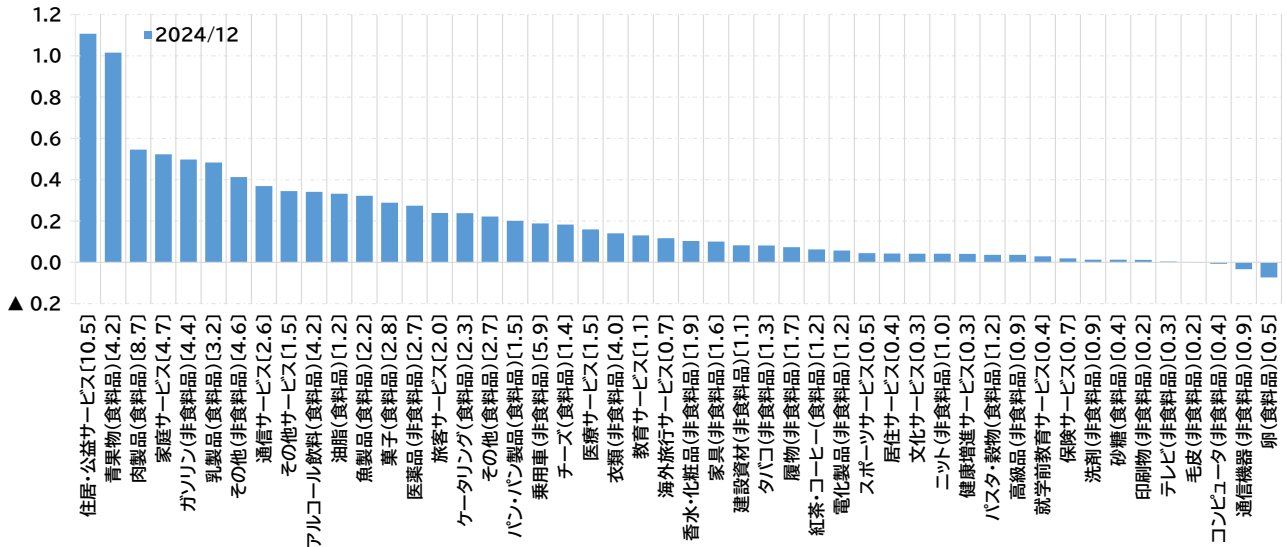
(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない (資料)CEIC、ロシア連邦統計局

なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む24年12月の上昇率寄与を見ると、前年比では概ね1月と同様の傾向が見て取れる（図表9・10）。

（図表9）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度）

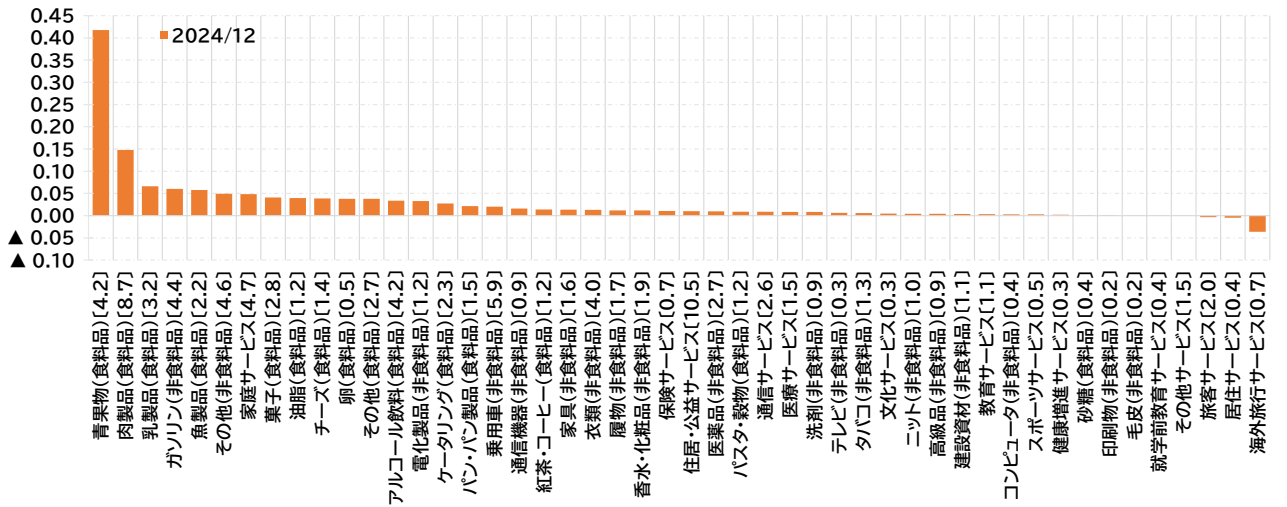


（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表10）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。